

# さわらび

2020. 1. 30 No. 26 文責：大塚

## 人権教育参観日

1月25日(土)、今年度の人権教育参観日を行いました。授業後の生徒の感想です。

### 【生徒の感想】

就職に現れた差別を学習して、(以前の応募用紙は)自分の思っていた以上にひどい応募用紙でびっくりしました。統一用紙になったのになくなる差別。どうしたらこのような差別で苦しむ人が減るんだろう、いなくなるんだろうと思ったし、その課題解決のために私たちに今できることって何があるんだろうと思いました。今日の授業で(部落差別の現実についての)ビデオを見て、現状を知って、自分が何も知らなかったことを思い知らされました。だから、私たちにできることは正しい知識を身につけておくこと、そして間違っていたことを言っている人がいたら「違う」と言えることなのかなと思いました。だから、高校生・おとなになっても今日身につけた正しい知識を使って、間違っていることを言っている・している人がいたら止める勇気を持ちたいと思います。

### 【生徒の感想】

今回の授業で被差別部落で生まれた人・その家族や友人までもが部落差別に出会って生活をしている現状を知った。また、後半のコンサートでしまむらかずおさんが言っていたように、自分に何かできることはないかななどを考え、少しでも差別がなくなるようにしたいと思います。そのためにも、まず周りの人に呼びかけるなどの活動もしたいと思いました。僕も人を差別することのない人になりたいと思いました。



1月に入ってから、就職に現れた差別を取り上げて同和問題について学んできました。この時間は、その一連の授業のまとめとして、『私たちのものがたり〜いま被差別部落を生きる〜』というドキュメンタリーを視聴して考える授業でした。また、当日は、保護者や区長会・地域の皆さんも参加していただき、とても大切なことを学び合う時間になりました。

授業後は体育館に移動して、小中合同での人権コンサートでした。講師は、元高知市役所職員のしまむらかずおさん。東日本大震災の被災地の学校にピアノを届ける活動のことなども含めて、90分間のコンサートがとても短く感じられるほど、60名あまりの参加者が歌と語りに引き込まれていました。



## 英語との出会い直し

1月30日(木)、同時通訳の仕事をしている小熊弥生さんが本校に来てくださり、4名の中学生と英語の授業を行いました。



今回の訪問は、ときどき本校に講師としてきてくれている松井浩さんが小熊さんと知り合いだったことから実現しました。小熊さんから「自分の体験談や使える英会話について中学生と授業できたら……。」との希望を聞いた松井さんが、「それならぜひ藤岡中に行きましょう」と誘ってくださったのです。(この取組は2019年度からスタートして、熊本県の小学校、秋田県の中学校・高校などを回って、2020年になって初めての学校が本校でした。)

「街で財布を拾ったらどうする？」から始まった授業。「日本人は交番に届けると言う。この相手のことを考えるという日本の素晴らしい価値観を世界に広めたい。」と語ってくれた小熊さん。自分自身の仕事である同時通訳の様子をALTのアレックスロ先生と実演してくれたり、聞き取る力を付けるための小熊さんの学び方を体験させてくれたりしました。

「間違ってもOKだよ。会話では、正しい文法で話そうとしてゆっくり考えていてはだめ。間を空けずに早くキーワードを言おう。」「相手を目の前にして、えーと、えーとを考えていたらコミュニケーションにならない。短くてもいい。次々次々と言葉を足せばいい。」同時通訳の仕事を通して、小熊さんが体験してきたことを例に挙げて教えてくれました。

### ■小熊さんへの質問

Q: 同時通訳の仕事をして楽しいことは何?

A: 例えば、首相官邸とかに仕事で入って政治家の同時通訳をしたり、国連事務総長の同時通訳をするなど、普段TVや新聞でしか見ない人と出会えて、その人の言葉を訳せること。

Q: 一番訳すのに苦労した単語は?

A: engagement (エンゲージメント) とかは訳すのに大変。なぜかという、「婚約」っていう意味もあるけれど、一緒に使う単語や場面によって、「働く人のやりがい」のように意味が変わってくる単語だから。

### ■生徒の感想

○今までの勉強の仕方とあわせて、自分のこれからは役に役立たい。

○楽しい1時間だったし、これからは英語で会話するときあまり考え過ぎないようにしたい。

